

事業評価シート一覧

番号-所属	番号-通番	事業名	担当課名
2140020	1	東海地区6年制薬学教育連携事業経費分担金	庶務会計課
2140020	2	公立大学協会普通会費	庶務会計課
2140020	3	薬学教育協議会分担金	庶務会計課
2140020	4	公正研究推進協会会費	庶務会計課
2140020	5	ぎふ技術革新センター運営協議会年会費	庶務会計課
2140020	6	中部経済連合会会費	庶務会計課
2140020	7	日本医薬情報センター会費	庶務会計課
2140020	8	日中学術交流	庶務会計課
2140020	9	日本サラマンカ大学友の会年会費	庶務会計課
2140025	1	オープンキャンパス開催	教務厚生課
2140025	2	市民公開講座	教務厚生課

事業評価シート(令和5年度事業評価用)

番号	2140020	001
----	---------	-----

【1.基本情報】

事業名	東海地区6年制薬学教育連携事業経費分担金					
担当部名	薬科大学		担当課名	庶務会計課		
実施方法	補助等	補助等の種類		加入団体負担金	実施主体	公立大学法人名古屋市立大学
開始・終了年度	平成	23	年度～	年度	根拠法令・関連計画	—

【2.事業概要】

目的 (何のためか)		東海地区の薬系大学と医系大学が連携して教育を推進するために分担金を負担することにより優れた薬剤師を輩出し、地域の医療水準を向上させることを目的とする。
内容 (手段・手法など)		優れた薬剤師を輩出し、地域の医療水準を向上させるため、東海地区の薬系大学と医系大学が連携して教育を推進する必要がある、それに伴う分担金を支払う。
事業 の 対 象	何を	会費
	誰に	公立大学法人名古屋市立大学
	どのくらい	120千円
令和5年度からの変更点 (継続事業の場合)		—

【3.支出(行政コスト)】

(1)人にかかるコスト

	令和3年度決算額		令和4年度決算額		令和5年度決算額	
	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)
正職員	32	1	32	1	32	1
パートタイム会計年度任用職員A	0	0	0	0	0	0
パートタイム会計年度任用職員B	0	0	0	0	0	0
計(A)	32	1	32	1	32	1

(2)物にかかるコスト

直接経費 【直接事業費】 (B)		令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)	令和5年度決算額(千円)
		120	120	120
直接事業費の 主な内訳		令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)	令和5年度決算額(千円)
項目	負担金	120	120	120
		0	0	0
		0	0	0
減価償却費 【施設管理】 (C)		令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)	令和5年度決算額(千円)
		0	0	0
計(D)=B+C		120	120	120

(3)総コスト

総事業費(E)=A+D		令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)	令和5年度決算額(千円)
		152	152	152

【4.収入】

収入内訳	令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)	令和5年度決算額(千円)
国庫支出金	0	0	0
県支出金	0	0	0
市債	0	0	0
使用料・手数料	0	0	0
その他	0	0	0
計(F)	0	0	0

【5.収支】

市負担額一般 財源(E - F)	令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)	令和5年度決算額(千円)
	152	152	152

【6.コストバランス】

	令和3年度	令和4年度	令和5年度
事業受益者	教員、学生	教員、学生	教員、学生
受益者数	839	857	885
受益者負担額(千円)	0	0	0
受益者負担率(%)	0.0%	0.0%	0.0%
受益者1人当たりのコスト (円、一般財源ベース)	182	177	172

【7.指標】

アウトプット評価（資源投入（インプット）により産出した活動（サービス））

活動指標名	薬学教育、臨床教育の推進のための取り組み		単位	-
	令和3年度	令和4年度	令和5年度	
目標値	-	-	-	
実績値	-	-	-	

アウトカム評価（アウトプットによりもたらされた成果）

成果指標名	地域の薬学教育、臨床教育の水準の向上		単位	-
	令和3年度	令和4年度	令和5年度	
目標値	-	-	-	
実績値	-	-	-	
達成状況	—	—	—	

【8.評価】

評価項目	評価	理由（可能な限り定量的又は定性的な指標を用いて説明）
必要性 目的が市民・社会のニーズに合っているか 事業を市が担う必要があるか（民間・国・県） 類似の事業はないか、あれば当該事業との 統廃合はできるか 【1】【2】から	高	東海4県の薬系大学と医系大学が参加しており、東海4県の薬剤師会、病院薬剤師会と連携し、地域の薬学教育、臨床教育の水準の向上を図っている。
		民間、国、県等に適当な機関が存在しない。
		類似の事業なし。
効率性 費用対効果 他に効率的な方法はないか （広域・民間活用・市民協働など） 【1】【3】【4】【5】【6】から	高	当事業に参画し、連携を図ることにより、東海4県の薬学教育、臨床教育の水準の向上を図ることができる。
		東海4県の薬剤師会、病院薬剤師会と連携し、地域の薬学教育、臨床教育の水準の向上を図るためには、東海4県の全ての薬系大学が参加する当該機関に加入することが最も効率的である。
有効性 ・期待した効果が得られたか 又は計画した将来に効果が得られる見込か 【2】【7】から	高	教員の教育能力を高めるための取り組みについて、検討会や講演会の開催等により連携して推進を行っている。
公平性 ・受益者及び受益者負担は適正か 【2】【6】【7】から	高	規約等により定められた額である。
〔総合評価〕 ・拡充：目標を達成しており、良い状態が続いているため、より良くしていく ・現状維持：様々な要因により、事業担当課の裁量で拡充又は改善することが困難であり、現状のまま事業を継続していく ・改善：目標を達成できておらず、事業の統合や縮小、実施内容の変更など、見直しを図る ・廃止：実施予定期間満了などの理由により、事業を取りやめる	現状維持	東海4県の全ての薬系大学が参加しており、連携して教員の教育能力を高めるための取り組み等を通じて地域の薬学教育、臨床教育の水準の向上を図っている。

事業評価シート(令和5年度事業評価用)

番号	2140020	002
----	---------	-----

【1.基本情報】

事業名	公立大学協会普通会費					
担当部名	薬科大学		担当課名	庶務会計課		
実施方法	補助等	補助等の種類		加入団体負担金	実施主体	一般社団法人公立大学協会
開始・終了年度	平成	24	年度～	年度	根拠法令・関連計画	一般社団法人公立大学協会定款

【2.事業概要】

目的 (何のためか)		公立大学の振興と高等教育、学術研究の水準の向上と均衡ある発展を目的とする。	
内容 (手段・手法など)		公立大学の振興と高等教育、学術研究の水準の向上と均衡ある発展のために公立大学協会に加盟し会費を負担する。	
事業 の 対 象	何を	会費	
	誰に	一般社団法人公立大学協会	
	どのくらい	986千円	
令和5年度からの変更点 (継続事業の場合)		—	

【3.支出(行政コスト)】

(1)人にかかるコスト

	令和3年度決算額		令和4年度決算額		令和5年度決算額	
	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)
正職員	32	1	32	1	32	1
パートタイム会計年度任用職員A	0	0	0	0	0	0
パートタイム会計年度任用職員B	0	0	0	0	0	0
計(A)	32	1	32	1	32	1

(2)物にかかるコスト

直接経費 【直接事業費】 (B)		令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)	令和5年度決算額(千円)
		994	986	970
直接事業費の 主な内訳		令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)	令和5年度決算額(千円)
項目	負担金	994	986	970
		0	0	0
		0	0	0
減価償却費 【施設管理】 (C)		令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)	令和5年度決算額(千円)
		0	0	0
計(D)=B+C		994	986	970

(3)総コスト

総事業費(E)=A+D		令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)	令和5年度決算額(千円)
		1,026	1,018	1,002

【4.収入】

収入内訳		令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)	令和5年度決算額(千円)
国庫支出金		0	0	0
県支出金		0	0	0
市債		0	0	0
使用料・手数料		0	0	0
その他		0	0	0
計(F)		0	0	0

【5.収支】

市負担額一般 財源(E - F)		令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)	令和5年度決算額(千円)
		1,026	1,018	1,002

【6.コストバランス】

	令和3年度	令和4年度	令和5年度
事業受益者	教員、学生	教員、学生	教員、学生
受益者数	839	857	885
受益者負担額(千円)	0	0	0
受益者負担率(%)	0.0%	0.0%	0.0%
受益者1人当たりのコスト (円、一般財源ベース)	1,223	1,188	1,132

【7.指標】

アウトプット評価（資源投入（インプット）により産出した活動（サービス））

活動指標名	調査、情報提供、情報発信	単位	-
	令和3年度	令和4年度	令和5年度
目標値	-	-	-
実績値	-	-	-

アウトカム評価（アウトプットによりもたらされた成果）

成果指標名	公立大学の振興と高等教育、学術研究の水準の向上	単位	-
	令和3年度	令和4年度	令和5年度
目標値	-	-	-
実績値	-	-	-
達成状況	—	—	—

【8.評価】

評価項目	評価	理由（可能な限り定量的又は定性的な指標を用いて説明）
必要性 目的が市民・社会のニーズに合っているか 事業を市が担う必要があるか（民間・国・県） 類似の事業はないか、あれば当該事業との 統廃合はできるか 【1】【2】から	高	公立大学の振興と高等教育、学術研究の水準の向上と均衡ある発展のために当協会に加入する必要がある。 民間、国、県等に適切な機関が存在しない。 類似の事業なし。
効率性 費用対効果 他に効率的な方法はないか （広域・民間活用・市民協働など） 【1】【3】【4】【5】【6】から	高	当協会に加入することにより、国等の高等教育政策の動向等についての情報提供を受けることができるほか公立大学の課題等についての調査、情報提供、公立大学を代表しての社会への情報発信等が可能となる。 国等の高等教育政策の動向等についての情報提供を受け、公立大学の課題等についての調査、情報提供、公立大学を代表しての社会への情報発信等を行うためには、全国の公立大学が加入する当該機関に加入することが最も効率的である。
有効性 ・期待した効果が得られたか 又は計画した将来に効果が得られる見込か 【2】【7】から	高	国等の高等教育政策の動向等についての情報提供や、公立大学の課題等についての調査、情報提供、公立大学を代表しての社会への情報発信等を行っている。
公平性 ・受益者及び受益者負担は適正か 【2】【6】【7】から	高	規程等により定められた額である。
〔総合評価〕 ・拡充：目標を達成しており、良い状態が続いているため、より良くしていく ・現状維持：様々な要因により、事業担当課の裁量で拡充又は改善することが困難であり、現状のまま事業を継続していく ・改善：目標を達成できておらず、事業の統合や縮小、実施内容の変更など、見直しを図る ・廃止：実施予定期間満了などの理由により、事業を取りやめる	現状維持	全国の公立大学が加入しており、国等の高等教育政策の動向等についての情報提供や、公立大学の課題等についての調査、情報提供、公立大学を代表しての社会への情報発信等により、公立大学の振興と高等教育、学術研究の水準の向上と均衡ある発展を図っている。

事業評価シート(令和5年度事業評価用)

番号 2140020 003

【1.基本情報】

事業名	薬学教育協議会分担金					
担当部名	薬科大学			担当課名	庶務会計課	
実施方法	補助等	補助等の種類		加入団体負担金	実施主体	一般社団法人薬学教育協議会
開始・終了年度	平成 16 年度 ~		年度	根拠法令・関連計画	一般社団法人薬学教育協議会定款	

【2.事業概要】

目的 (何のためか)		薬学教育協議会に加入し分担金を支払うことで薬学教育の充実・改善発展に寄与し、公衆衛生の向上と国民の健康の増進をはかることを目的とする。
内容 (手段・手法など)		薬学教育の充実・改善発展に寄与し、公衆衛生の向上と国民の健康の増進をはかるために薬学教育協議会に加入し分担金を支払う。
事業 の 対 象	何を	会費
	誰に	一般社団法人薬学教育協議会
	どのくらい	350千円
令和5年度からの変更点 (継続事業の場合)		—

【3.支出(行政コスト)】

(1)人にかかるコスト

	令和3年度決算額		令和4年度決算額		令和5年度決算額	
	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)
正職員	32	1	32	1	32	1
パートタイム会計年度任用職員A	0	0	0	0	0	0
パートタイム会計年度任用職員B	0	0	0	0	0	0
計(A)	32	1	32	1	32	1

(2)物にかかるコスト

直接経費 【直接事業費】 (B)		令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)	令和5年度決算額(千円)
		350	350	350
直接事業費の 主な内訳		令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)	令和5年度決算額(千円)
項目	負担金	350	350	350
		0	0	0
		0	0	0
減価償却費 【施設管理】 (C)		令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)	令和5年度決算額(千円)
		0	0	0
計(D)=B+C		350	350	350

(3)総コスト

総事業費(E)=A+D		令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)	令和5年度決算額(千円)
		382	382	382

【4.収入】

収入内訳	令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)	令和5年度決算額(千円)
国庫支出金	0	0	0
県支出金	0	0	0
市債	0	0	0
使用料・手数料	0	0	0
その他	0	0	0
計(F)	0	0	0

【5.収支】

市負担額一般 財源(E - F)	令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)	令和5年度決算額(千円)
	382	382	382

【6.コストバランス】

	令和3年度	令和4年度	令和5年度
事業受益者	教員、学生	教員、学生	教員、学生
受益者数	839	857	885
受益者負担額(千円)	0	0	0
受益者負担率(%)	0.0%	0.0%	0.0%
受益者1人当たりのコスト (円、一般財源ベース)	456	446	432

【7.指標】

アウトプット評価（資源投入（インプット）により産出した活動（サービス））

活動指標名	薬学教育の充実・改善発展		単位	-
	令和3年度	令和4年度	令和5年度	
目標値	-	-	-	
実績値	-	-	-	

アウトカム評価（アウトプットによりもたらされた成果）

成果指標名	公衆衛生の向上と国民の健康の増進		単位	-
	令和3年度	令和4年度	令和5年度	
目標値	-	-	-	
実績値	-	-	-	
達成状況	—	—	—	

【8.評価】

評価項目	評価	理由（可能な限り定量的又は定性的な指標を用いて説明）
必要性 目的が市民・社会のニーズに合っているか 事業を市が担う必要があるか（民間・国・県） 類似の事業はないか、あれば当該事業との 統廃合はできるか 【1】【2】から	高	薬学教育プログラムの充実・発展のための情報共有や問題点の抽出等を行い、よりよい薬学教育プログラムについて検討を行っている。
		民間、国、県等に適切な機関が存在しない。
		類似の事業なし
効率性 費用対効果 他に効率的な方法はないか （広域・民間活用・市民協働など） 【1】【3】【4】【5】【6】から	高	当協議会に加入することにより、薬学教育プログラムの充実・発展のための情報共有や問題点の抽出等に基づくよりよい薬学教育プログラムについて情報を得られる。
		薬学教育プログラムの充実・発展のための情報共有や問題点の抽出等に基づくよりよい薬学教育プログラムについて情報を得るには、全国の薬系大学が加入している当該機関に加入することが最も効率的である。
有効性 ・期待した効果が得られたか 又は計画した将来に効果が得られる見込か 【2】【7】から	高	薬学教育教科担当教員会議の開催等により、よりよい薬学教育プログラムについての検討が行われている。
公平性 ・受益者及び受益者負担は適正か 【2】【6】【7】から	高	定款等により定められた額である。
〔総合評価〕 ・拡充：目標を達成しており、良い状態が続いているため、より良くしていく ・現状維持：様々な要因により、事業担当課の裁量で拡充又は改善することが困難であり、現状のまま事業を継続していく ・改善：目標を達成できておらず、事業の統合や縮小、実施内容の変更など、見直しを図る ・廃止：実施予定期間満了などの理由により、事業を取りやめる	現状維持	全国の薬系大学が加入しており、薬学教育プログラムの充実・発展のための情報共有や問題点の抽出等によるよりよい薬学教育プログラムについて検討が行われており、薬学教育の充実・改善発展に寄与している。

事業評価シート(令和5年度事業評価用)

番号 2140020 004

【1.基本情報】

事業名	公正研究推進協会会費					
担当部名	薬科大学			担当課名	庶務会計課	
実施方法	補助等	補助等の種類		加入団体負担金	実施主体	一般財団法人公正研究推進協会
開始・終了年度	平成 29 年度 ~		年度	根拠法令・関連計画	一般財団法人公正研究推進協会会員規程	

【2.事業概要】

目的 (何のためか)		公正研究推進協会に加入し、研究倫理に関する研究、情報交換、相互協力、研究倫理を担う人材の育成をはかることを目的とする。
内容 (手段・手法など)		研究倫理に関する研究、情報交換、相互協力、研究倫理を担う人材の育成をはかるために公正研究推進協会に加入し会費を支払う。
事業 の 対 象	何を	会費
	誰に	一般財団法人公正研究推進協会
	どのくらい	250千円
令和5年度からの変更点 (継続事業の場合)		—

【3.支出(行政コスト)】

(1)人にかかるコスト

	令和3年度決算額		令和4年度決算額		令和5年度決算額	
	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)
正職員	32	1	32	1	32	1
パートタイム会計年度任用職員A	0	0	0	0	0	0
パートタイム会計年度任用職員B	0	0	0	0	0	0
計(A)	32	1	32	1	32	1

(2)物にかかるコスト

直接経費 【直接事業費】 (B)		令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)	令和5年度決算額(千円)
		250	250	250
直接事業費の 主な内訳		令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)	令和5年度決算額(千円)
項目	会費	250	250	250
		0	0	0
		0	0	0
減価償却費 【施設管理】 (C)		令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)	令和5年度決算額(千円)
		0	0	0
計(D)=B+C		250	250	250

(3)総コスト

総事業費(E)=A+D		令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)	令和5年度決算額(千円)
		282	282	282

【4.収入】

収入内訳	令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)	令和5年度決算額(千円)
国庫支出金	0	0	0
県支出金	0	0	0
市債	0	0	0
使用料・手数料	0	0	0
その他	0	0	0
計(F)	0	0	0

【5.収支】

市負担額一般 財源(E - F)	令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)	令和5年度決算額(千円)
	282	282	282

【6.コストバランス】

	令和3年度	令和4年度	令和5年度
事業受益者	教員、学生	教員、学生	教員、学生
受益者数	839	857	885
受益者負担額(千円)	0	0	0
受益者負担率(%)	0.0%	0.0%	0.0%
受益者1人当たりのコスト (円、一般財源ベース)	336	329	319

【7.指標】

アウトプット評価 (資源投入(インプット)により産出した活動(サービス))

活動指標名	e-learning登録者数	単位	人
	令和3年度	令和4年度	令和5年度
目標値	100	100	100
実績値	130	131	140

アウトカム評価 (アウトプットによりもたらされた成果)

成果指標名	科学研究費助成事業申請件数	単位	件
	令和3年度	令和4年度	令和5年度
目標値	50	50	50
実績値	45	59	54
達成状況	× (未達成)	○ (達成)	○ (達成)

【8.評価】

評価項目	評価	理由(可能な限り定量的又は定性的な指標を用いて説明)
必要性 目的が市民・社会のニーズに合っているか 事業を市が担う必要があるか(民間・国・県) 類似の事業はないか、あれば当該事業との 統廃合はできるか 【1】【2】から	高	「競争的研究資金」である科学研究費助成に申請を行うにあたって、公募申請前に研究倫理教育の受講が義務付けられているため公正研究推進協会に加入し、e-learningにより研究倫理研修を受講する必要がある。 民間、国、県等に適切な機関が存在しない。 類似事業なし。
効率性 費用対効果 他に効率的な方法はないか (広域・民間活用・市民協働など) 【1】【3】【4】【5】【6】から	高	科学研究費助成事業に3年間で延べ158件の申請が行われ、75件、160,782千円以上の助成金を獲得している。 「競争的研究資金」である科学研究費助成に申請を行うにあたっては、公募申請前に研究倫理教育の受講が義務付けられているため、当該機関のe-learningにより研究倫理研修を受講する方法が最も効率的である。
有効性 ・期待した効果が得られたか 又は計画した将来に効果が得られる見込か 【2】【7】から	高	公正研究推進協会に加入し、e-learningによる研究倫理研修を受講し、科学研究費助成事業に3年間で延べ158件の申請を行っている。
公平性 ・受益者及び受益者負担は適正か 【2】【6】【7】から	高	規程等により定められた額である。
〔総合評価〕 ・拡充：目標を達成しており、良い状態が続いているため、より良くしていく ・現状維持： 様々な要因により、事業担当課の裁量で拡充又は改善することが困難であり、現状のまま事業を継続していく ・改善：目標を達成できておらず、事業の統合や縮小、実施内容の変更など、見直しを図る ・廃止：実施予定期間満了などの理由により、事業を取りやめる	現状維持	毎年度科学研究費助成事業に公募申請を行い、3年間では75件、160,782千円以上の助成金を獲得しており、成果が得られている。

事業評価シート(令和5年度事業評価用)

番号	2140020	005
----	---------	-----

【1.基本情報】

事業名	ぎふ技術革新センター運営協議会年会費					
担当部名	薬科大学		担当課名	庶務会計課		
実施方法	補助等	補助等の種類		加入団体負担金	実施主体	ぎふ技術革新センター運営協議会
開始・終了年度	平成	30	年度～	年度	根拠法令・関連計画	ぎふ技術革新センター運営協議会会則

【2.事業概要】

目的 (何のためか)		ぎふ技術革新センターに加入し産学官連携活動を活性化することで、革新的な技術開発を積極的に促進し、地域産業の発展に貢献することを目的とする。	
内容 (手段・手法など)		・技術開発の推進と技術の向上を図るための共同研究助成事業 ・ぎふ技術革新センターを活用した人材育成のための若手機器利用助成事業 ・産学官による積極的な研究交流事業 ・その他、地域産学官連携並びに地域産業振興を促進するために必要な事業	
事業 の 対 象	何を	年会費	
	誰に	ぎふ技術革新センター運営協議会	
	どのくらい	100千円	
令和5年度からの変更点 (継続事業の場合)		—	

【3.支出(行政コスト)】

(1)人にかかるコスト

	令和3年度決算額		令和4年度決算額		令和5年度決算額	
	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)
正職員	32	1	32	1	32	1
パートタイム会計年度任用職員A	0	0	0	0	0	0
パートタイム会計年度任用職員B	0	0	0	0	0	0
計(A)	32	1	32	1	32	1

(2)物にかかるコスト

直接経費 【直接事業費】 (B)		令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)	令和5年度決算額(千円)
		100	100	100
直接事業費の 主な内訳		令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)	令和5年度決算額(千円)
項目	負担金	100	100	100
		0	0	0
		0	0	0
減価償却費 【施設管理】 (C)		令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)	令和5年度決算額(千円)
		0	0	0
計(D)=B+C		100	100	100

(3)総コスト

総事業費(E)=A+D		令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)	令和5年度決算額(千円)
		132	132	132

【4.収入】

収入内訳		令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)	令和5年度決算額(千円)
国庫支出金		0	0	0
県支出金		0	0	0
市債		0	0	0
使用料・手数料		0	0	0
その他		0	0	0
計(F)		0	0	0

【5.収支】

市負担額一般 財源(E - F)		令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)	令和5年度決算額(千円)
		132	132	132

【6.コストバランス】

	令和3年度	令和4年度	令和5年度
事業受益者	教員、学生、市民	教員、学生、市民	教員、学生、市民
受益者数	-	-	-
受益者負担額(千円)	0	0	0
受益者負担率(%)	0.0%	0.0%	0.0%
受益者1人当たりのコスト (円、一般財源ベース)	0	0	0

【7.指標】

アウトプット評価（資源投入(インプット)により産出した活動(サービス)）

活動指標名	産学官連携活動の活性化		単位	-
	令和3年度	令和4年度	令和5年度	
目標値	-	-	-	
実績値	-	-	-	

アウトカム評価（アウトプットによりもたらされた成果）

成果指標名	革新的な技術開発、地域産業の発展		単位	-
	令和3年度	令和4年度	令和5年度	
目標値	-	-	-	
実績値	-	-	-	
達成状況	—	—	—	

【8.評価】

評価項目	評価	理由(可能な限り定量的又は定性的な指標を用いて説明)
必要性 目的が市民・社会のニーズに合っているか 事業を市が担う必要があるか(民間・国・県) 類似の事業はないか、あれば当該事業との 統廃合はできるか 【1】【2】から	高	岐阜県や岐阜大学をはじめとする研究機関、地域産業界の100を超える団体が参加しており、産学官連携活動を活性化することにより、革新的な技術開発、地域産業の発展を図っている。
		民間、国、県等に適当な機関が存在しない。
		類似事業無し。
効率性 費用対効果 他に効率的な方法はないか (広域・民間活用・市民協働など) 【1】【3】【4】【5】【6】から	高	当事業に参画し、産学官連携活動を活性化することにより、革新的な技術開発、地域産業の発展を図ることができる。
		革新的な技術開発を積極的に促進し、地域産業の発展を図るためには、岐阜県や岐阜大学をはじめとする研究機関、地域産業界の100を超える団体が参加する当該機関に加入することが最も効率的である。
有効性 ・期待した効果が得られたか 又は計画した将来に効果が得られる見込か 【2】【7】から	中	人材育成、研究交流などの事業に参加するとともに、平成30年度には本学教員と正会員企業からなる共同研究体が共同研究助成事業に応募し、助成金を獲得した。
公平性 ・受益者及び受益者負担は適正か 【2】【6】【7】から	高	会則等により定められた額である。
〔総合評価〕 ・拡充：目標を達成しており、良い状態が続いているため、より良くしていく ・現状維持：様々な要因により、事業担当課の裁量で拡充又は改善することが困難であり、現状のまま事業を継続していく ・改善：目標を達成できておらず、事業の統合や縮小、実施内容の変更など、見直しを図る ・廃止：実施予定期間満了などの理由により、事業を取りやめる	現状維持	岐阜県や岐阜大学をはじめとする研究機関、地域産業界の100を超える団体が参加するぎふ技術革新センターの事業を通じて、産学官連携活動の活性化、革新的な技術開発、地域産業の発展が図られている。

事業評価シート(令和5年度事業評価用)

番号	2140020	006
----	---------	-----

【1.基本情報】

事業名	中部経済連合会会費					
担当部名	薬科大学		担当課名	庶務会計課		
実施方法	補助等	補助等の種類		加入団体負担金	実施主体	一般社団法人中部経済連合会
開始・終了年度	平成 30 年度 ~		年度	根拠法令・関連計画	一般社団法人中部経済連合会定款等	

【2.事業概要】

目的 (何のためか)		産業経済等に関する諸問題を調査研究し、中部経済界としての意見をとりまとめて、その実現を図り、同地域経済の総合的な振興を通して、経済の発展に寄与する。	
内容 (手段・手法など)		・委員会、懇談会を設置して、産業経済問題等に関して意見をとりまとめ、これを表明し、その実現を図ること ・産業経済問題等を調査研究し、その成果を普及すること ・産業経済等に関する情報収集等、併せて機関紙の発行、講演会の開催 ・産業経済界等との連絡連携を図ること ・その他、目的を達成するために必要な事業	
事業 の 対 象	何を	会費	
	誰に	一般社団法人中部経済連合会	
	どのくらい	180千円	
令和5年度からの変更点 (継続事業の場合)		—	

【3.支出(行政コスト)】

(1)人にかかるコスト

	令和3年度決算額		令和4年度決算額		令和5年度決算額	
	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)
正職員	32	1	32	1	32	1
パートタイム会計年度任用職員A	0	0	0	0	0	0
パートタイム会計年度任用職員B	0	0	0	0	0	0
計(A)	32	1	32	1	32	1

(2)物にかかるコスト

直接経費 【直接事業費】 (B)		令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)	令和5年度決算額(千円)
		180	180	180
直接事業費の 主な内訳		令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)	令和5年度決算額(千円)
項目	負担金	180	180	180
		0	0	0
		0	0	0
減価償却費 【施設管理】 (C)		令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)	令和5年度決算額(千円)
		0	0	0
計(D)=B+C		180	180	180

(3)総コスト

総事業費(E)=A+D		令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)	令和5年度決算額(千円)
		212	212	212

【4.収入】

収入内訳		令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)	令和5年度決算額(千円)
国庫支出金		0	0	0
県支出金		0	0	0
市債		0	0	0
使用料・手数料		0	0	0
その他		0	0	0
計(F)		0	0	0

【5.収支】

市負担額一般 財源(E - F)		令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)	令和5年度決算額(千円)
		212	212	212

【6.コストバランス】

	令和3年度	令和4年度	令和5年度
事業受益者	教員、学生、市民	教員、学生、市民	教員、学生、市民
受益者数	-	-	-
受益者負担額(千円)	0	0	0
受益者負担率(%)	0.0%	0.0%	0.0%
受益者1人当たりのコスト (円、一般財源ベース)	0	0	0

【7.指標】

アウトプット評価（資源投入（インプット）により産出した活動（サービス））

活動指標名	産業経済等に関する情報の提供、産業経済界との連携		単位	-
	令和3年度	令和4年度	令和5年度	
目標値	-	-	-	
実績値	-	-	-	

アウトカム評価（アウトプットによりもたらされた成果）

成果指標名	産官学の連携活動の活性化		単位	-
	令和3年度	令和4年度	令和5年度	
目標値	-	-	-	
実績値	-	-	-	
達成状況	—	—	—	

【8.評価】

評価項目	評価	理由（可能な限り定量的又は定性的な指標を用いて説明）
必要性 目的が市民・社会のニーズに合っているか 事業を市が担う必要があるか（民間・国・県） 類似の事業はないか、あれば当該事業との 統廃合はできるか 【1】【2】から	高	中部圏を代表する約760の企業、学校、経済団体で構成されており、中部圏、国内外の重要課題について調査・研究を行っており、その情報を得るとともに産業経済界との連携を図っている。
		民間、国、県等に適切な機関が存在しない。
		類似事業無し。
効率性 費用対効果 他に効率的な方法はないか （広域・民間活用・市民協働など） 【1】【3】【4】【5】【6】から	高	当連合会に参画し、産学官連携活動を活性化することにより、地域産業の発展を図ることができる。
		地域産業の発展を図るためには、中部圏を代表する約780の企業、学校、経済団体で構成される当該機関に加入することが最も効率的である。
有効性 ・期待した効果が得られたか 又は計画した将来に効果が得られる見込か 【2】【7】から	高	産業経済等に関する情報収集、連絡調整により、産学官連携活動の活性化を図っている。
公平性 ・受益者及び受益者負担は適正か 【2】【6】【7】から	高	定款等により定められた額である。
〔総合評価〕 ・拡充：目標を達成しており、良い状態が続いているため、より良くしていく ・現状維持： 様々な要因により、事業担当課の裁量で拡充又は改善することが困難であり、現状のまま事業を継続していく ・改善：目標を達成できておらず、事業の統合や縮小、実施内容の変更など、見直しを図る ・廃止：実施予定期間満了などの理由により、事業を取りやめる	現状維持	中部圏を代表する約760の企業、学校、経済団体で構成される中部経済連合会の事業を通じて、産学官連携活動の活性化、地域産業の発展が図られている。

事業評価シート(令和5年度事業評価用)

番号	2140020	007
----	---------	-----

【1.基本情報】

事業名	日本医薬情報センター会費					
担当部名	薬科大学		担当課名	庶務会計課		
実施方法	補助等	補助等の種類		加入団体負担金	実施主体	一般財団法人日本医薬情報センター
開始・終了年度	令和5年度	～	年度	根拠法令・関連計画	一般財団法人日本医薬情報センター定款	

【2.事業概要】

目的 (何のためか)		日本医薬情報センターから提供される医薬品及び医療機器等に関する安全性及び有効性等の情報を本学での研究活動に活用し、新医薬品等の創製並びに新技術の開発の一助とすることで、国民の健康、医療の向上に貢献することを目的とする。
内容 (手段・手法など)		・医療用及び一般用医薬品添付文書の収集、医薬品添付文書関連情報のデータベース提供 ・海外規制措置情報等の提供及び海外文献情報の提供 ・医薬文献・学会情報の提供
事業 の 対 象	何を	会費
	誰に	一般財団法人日本医薬情報センター
	どのくらい	120千円
令和5年度からの変更点 (継続事業の場合)		—

【3.支出(行政コスト)】

(1)人にかかるコスト

	令和3年度決算額		令和4年度決算額		令和5年度決算額	
	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)
正職員	0	0	0	0	32	1
パートタイム会計年度任用職員A	0	0	0	0	0	0
パートタイム会計年度任用職員B	0	0	0	0	0	0
計(A)	0	0	0	0	32	1

(2)物にかかるコスト

直接経費 【直接事業費】 (B)		令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)	令和5年度決算額(千円)
		0	0	120
直接事業費の 主な内訳		令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)	令和5年度決算額(千円)
項目	負担金	0	0	120
		0	0	0
		0	0	0
減価償却費 【施設管理】 (C)		令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)	令和5年度決算額(千円)
		0	0	0
計(D)=B+C		0	0	120

(3)総コスト

総事業費(E)=A+D		令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)	令和5年度決算額(千円)
		0	0	152

【4.収入】

収入内訳		令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)	令和5年度決算額(千円)
国庫支出金		0	0	0
県支出金		0	0	0
市債		0	0	0
使用料・手数料		0	0	0
その他		0	0	0
計(F)		0	0	0

【5.収支】

市負担額一般 財源(E - F)		令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)	令和5年度決算額(千円)
		0	0	152

【6.コストバランス】

	令和3年度	令和4年度	令和5年度
事業受益者	—	—	教員、学生、市民
受益者数	-	-	-
受益者負担額(千円)	0	0	0
受益者負担率(%)	0.0%	0.0%	0.0%
受益者1人当たりのコスト (円、一般財源ベース)	0	0	0

【7.指標】

アウトプット評価（資源投入(インプット)により産出した活動(サービス)）

活動指標名	医薬品及び医療機器等に関する情報利用		単位	-
	令和3年度	令和4年度	令和5年度	
目標値	-	-	-	
実績値	-	-	-	

アウトカム評価（アウトプットによりもたらされた成果）

成果指標名	健康、医療の向上		単位	-
	令和3年度	令和4年度	令和5年度	
目標値	-	-	-	
実績値	-	-	-	
達成状況	—	—	—	

【8.評価】

評価項目	評価	理由(可能な限り定量的又は定性的な指標を用いて説明)
必要性 目的が市民・社会のニーズに合っているか 事業を市が担う必要があるか(民間・国・県) 類似の事業はないか、あれば当該事業との 統廃合はできるか 【1】【2】から	高	製薬企業、医療機関、薬局、薬剤師会、大学等の研究機関等319の団体で構成されており、日本医薬情報センターが提供する医薬品情報のデータベースは、新医薬品等の創製並びに新技術の開発には欠かせないものである。 民間、国、県等に適切な機関が存在しない。 類似事業無し。
効率性 費用対効果 他に効率的な方法はないか (広域・民間活用・市民協働など) 【1】【3】【4】【5】【6】から	高	日本医薬情報センターが提供する医薬品情報のデータベースを活用し、新医薬品等の創製並びに新技術の開発の一助とすることで、国民の健康、医療の向上に貢献することができる。 医薬品に関する国内外の情報が幅広く迅速に収集され、公正な立場で整理・分析し、的確で使いやすかつ見やすい形式に加工された情報を提供する機関は他に見られず、当センターに加入することが最も効率的である。
有効性 ・期待した効果が得られたか 又は計画した将来に効果が得られる見込か 【2】【7】から	高	日本医薬情報センターから提供される医薬品及び医療機器等に関する安全性及び有効性等の情報を本学での研究活動に活用し、新医薬品等の創製並びに新技術の開発の一助とすることで、国民の健康、医療の向上への貢献を図っている。
公平性 ・受益者及び受益者負担は適正か 【2】【6】【7】から	高	定款等により定められた額である。
〔総合評価〕 ・拡充：目標を達成しており、良い状態が続いているため、より良くしていく ・現状維持： 様々な要因により、事業担当課の裁量で拡充又は改善することが困難であり、現状のまま事業を継続していく ・改善：目標を達成できておらず、事業の統合や縮小、実施内容の変更など、見直しを図る ・廃止：実施予定期間満了などの理由により、事業を取りやめる	現状維持	製薬企業、医療機関、薬局、薬剤師会、大学等の研究機関等319の団体で構成される日本医薬情報センターが提供する医薬品情報のデータベースと同等のサービスを提供する機関は他に見られず、新医薬品等の創製並びに新技術の開発には欠かせないものである。引き続き、当センターに加入し、当センターの情報データベースを本学での研究活動に活用し、新医薬品等の創製並びに新技術の開発の一助とすることで、国民の健康、医療の向上への貢献を図る。

事業評価シート(令和5年度事業評価用)

番号 2140020 008

【1.基本情報】

事業名	日中学術交流					
担当部名	薬科大学		担当課名	庶務会計課		
実施方法	その他	補助等の種類		実施主体	岐阜薬科大学日中学術交流事業会	
開始・終了年度	昭和 58 年度 ~		年度	根拠法令・関連計画	日中平和友好条約、姉妹校締結協議書等	

【2.事業概要】

目的 (何のためか)		薬学の教育研究の交流を通じて、両校の間の相互理解を高め薬学の発展を推進し、日中両国の友好関係を増進することを目的とする。
内容 (手段・手法など)		学内に設置された岐阜薬科大学日中学術交流事業会において学術交流、薬学向上発展、日中友好親善の目的のため、学術講演による相互交流、共同研究員の受け入れなどを中国薬科大学、浙江大学薬学院と行うために負担金を支払う。
事業 の 対 象	何を	旅費及び負担金を
	誰に	薬大の教員及び岐阜薬科大学日中学術交流事業会
	どのくらい	2,000千円
令和5年度からの変更点 (継続事業の場合)		令和2年度から令和4年度まで新型コロナウイルス感染症拡大のため事業は実施しなかったが、令和5年度からは学術交流事業を再開した。

【3.支出(行政コスト)】

(1)人にかかるコスト

	令和3年度決算額		令和4年度決算額		令和5年度決算額	
	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)
正職員	0	0	0	0	5,152	160
パートタイム会計年度任用職員A	0	0	0	0	0	0
パートタイム会計年度任用職員B	0	0	0	0	0	0
計(A)	0	0	0	0	5,152	160

(2)物にかかるコスト

直接経費 【直接事業費】 (B)		令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)	令和5年度決算額(千円)
		0	0	1,974
直接事業費の 主な内訳		令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)	令和5年度決算額(千円)
項目	旅費	0	0	299
	負担金	0	0	1,675
		0	0	0
減価償却費 【施設管理】 (C)		令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)	令和5年度決算額(千円)
		0	0	0
計(D)=B+C		0	0	1,974

(3)総コスト

総事業費(E)=A+D		令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)	令和5年度決算額(千円)
		0	0	7,126

【4.収入】

収入内訳		令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)	令和5年度決算額(千円)
国庫支出金		0	0	0
県支出金		0	0	0
市債		0	0	0
使用料・手数料		0	0	0
その他		0	0	0
計(F)		0	0	0

【5.収支】

市負担額一般 財源(E - F)		令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)	令和5年度決算額(千円)
		0	0	7,126

【6.コストバランス】

	令和3年度	令和4年度	令和5年度
事業受益者	—	—	教員、学生
受益者数	-	-	885
受益者負担額(千円)	-	-	0
受益者負担率(%)	0.0%	0.0%	0.0%
受益者1人当たりのコスト (円、一般財源ベース)	0	0	8,052

【7.指標】

アウトプット評価（資源投入（インプット）により産出した活動（サービス））

活動指標名	派遣及び受入人数	単位	人
	令和3年度	令和4年度	令和5年度
目標値	-	-	20
実績値	-	-	18

アウトカム評価（アウトプットによりもたらされた成果）

成果指標名	学術交流の継続、発展	単位	—
	令和3年度	令和4年度	令和5年度
目標値	-	-	学術交流の継続、発展
実績値	-	-	学術交流の継続、発展
達成状況	—	—	○（達成）

【8.評価】

評価項目	評価	理由（可能な限り定量的又は定性的な指標を用いて説明）
必要性 目的が市民・社会のニーズに合っているか 事業を市が担う必要があるか（民間・国・県） 類似の事業はないか、あれば当該事業との 統廃合はできるか 【1】【2】から	高	姉妹校締結協議書、学術協力に関する協議書に基づき、中国薬科大学、浙江大学薬学院と学術交流、薬学向上発展、日中友好親善の増進を行っている。 薬科大学と両校により姉妹校締結協議書、学術協力に関する協議書が締結されており、他の機関において実施することはできない。 薬科大学と両校により姉妹校締結協議書、学術協力に関する協議書が締結されており、他の機関において実施することはできない。
効率性 費用対効果 他に効率的な方法はないか （広域・民間活用・市民協働など） 【1】【3】【4】【5】【6】から	高	昨年度、派遣・受入を行った浙江大学薬学院は中国の大学でもトップ5に入る大学であり、そうした大学と学術交流を通して得られる本学のメリットは非常に大きい。また、余剰金が生じた場合には、戻入しており、 薬科大学と両校により姉妹校締結協議書、学術協力に関する協議書が締結されており、他の機関において実施することはできない。
有効性 ・期待した効果が得られたか 又は計画した将来に効果が得られる見込か 【2】【7】から	高	毎年度20人前後の派遣及び受入を行っており、両校とは5年毎をめどに学術交流について協議を行っている。
公平性 ・受益者及び受益者負担は適正か 【2】【6】【7】から	高	学内の教員、学生の保護者である後援会員からなる岐阜薬科大学日中学術交流事業会役員会を経て負担金額を決定しており、また、余剰金が生じた場合には、戻入している。
〔総合評価〕 ・拡充：目標を達成しており、良い状態が続いているため、より良くしていく ・現状維持： 様々な要因により、事業担当課の裁量で拡充又は改善することが困難であり、現状のまま事業を継続していく ・改善：目標を達成できておらず、事業の統合や縮小、実施内容の変更など、見直しを図る ・廃止：実施予定期間満了などの理由により、事業を取りやめる	現状維持	日中学術交流事業会において中国薬科大学、浙江大学薬学院と学術講演による相互交流、共同研究員の受け入れなどを行っており、それにより学術交流、薬学向上発展、日中友好親善の増進の成果が得られている。

事業評価シート(令和5年度事業評価用)

番号	2140020	009
----	---------	-----

【1.基本情報】

事業名	日本サラマンカ大学友の会年会費					
担当部名	薬科大学		担当課名	庶務会計課		
実施方法	補助等	補助等の種類		加入団体負担金	実施主体	日本サラマンカ大学友の会
開始・終了年度	平成	30	年度～	年度	根拠法令・関連計画	日本サラマンカ大学友の会規約等

【2.事業概要】

目的 (何のためか)		日本人学生の留学の促進、留学経験者の交流の深化を通じて、日本スペイン両国の友好関係の増進に寄与することを目的とする。
内容 (手段・手法など)		サラマンカ大学への日本人学生の派遣支援、サラマンカ大学との連絡調整、その他目的を達成するために必要な事業
事業 の 対 象	何を	年会費
	誰に	日本サラマンカ大学友の会
	どのくらい	100千円
令和5年度からの変更点 (継続事業の場合)		令和3・4年度において市費での予算計上は無かったが、新型コロナウイルス感染症も収束し、サラマンカ大学との学术交流の再開が予想されるため、市費での予算計上、支出を行った。

【3.支出(行政コスト)】

(1)人にかかるコスト

	令和3年度決算額		令和4年度決算額		令和5年度決算額	
	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)
正職員	0	0	0	0	32	1
パートタイム会計年度任用職員A	0	0	0	0	0	0
パートタイム会計年度任用職員B	0	0	0	0	0	0
計(A)	0	0	0	0	32	1

(2)物にかかるコスト

直接経費 【直接事業費】 (B)		令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)	令和5年度決算額(千円)
		0	0	100
直接事業費の 主な内訳		令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)	令和5年度決算額(千円)
項目	負担金	0	0	100
		0	0	0
		0	0	0
減価償却費 【施設管理】 (C)		令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)	令和5年度決算額(千円)
		0	0	0
計(D)=B+C		0	0	100

(3)総コスト

総事業費(E)=A+D		令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)	令和5年度決算額(千円)
		0	0	132

【4.収入】

収入内訳		令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)	令和5年度決算額(千円)
国庫支出金		0	0	0
県支出金		0	0	0
市債		0	0	0
使用料・手数料		0	0	0
その他		0	0	0
計(F)		0	0	0

【5.収支】

市負担額一般 財源(E - F)		令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)	令和5年度決算額(千円)
		0	0	132

【6.コストバランス】

	令和3年度	令和4年度	令和5年度
事業受益者	—	—	教員、学生
受益者数	-	-	885
受益者負担額(千円)	-	-	0
受益者負担率(%)	0.0%	0.0%	0.0%
受益者1人当たりのコスト (円、一般財源ベース)	0	0	149

【7.指標】

アウトプット評価（資源投入(インプット)により産出した活動(サービス)）

活動指標名	サラマンカ大学との学术交流	単位	-
	令和3年度	令和4年度	令和5年度
目標値	-	-	-
実績値	-	-	-

アウトカム評価（アウトプットによりもたらされた成果）

成果指標名	学术交流の継続、発展	単位	-
	令和3年度	令和4年度	令和5年度
目標値	-	-	-
実績値	-	-	-
達成状況	—	—	—

【8.評価】

評価項目	評価	理由(可能な限り定量的又は定性的な指標を用いて説明)
必要性 目的が市民・社会のニーズに合っているか 事業を市が担う必要があるか(民間・国・県) 類似の事業はないか、あれば当該事業との 統廃合はできるか 【1】【2】から	高	サラマンカ大学とは学术交流協定を締結しており、日本サラマンカ大 学友の会の連絡調整の下、学术交流を深め、薬学向上発展、日本ス 페인両国の友好親善の増進を行っている。 サラマンカ大学の日本における窓口は当機関のみであり、他の機関に おいて実施することはできない。 類似事業無し。
効率性 費用対効果 他に効率的な方法はないか (広域・民間活用・市民協働など) 【1】【3】【4】【5】【6】から	高	日本サラマンカ大学友の会の連絡調整の下、サラマンカ大学との学术 交流を深めている。 サラマンカ大学の日本における窓口は当機関のみであり、他の機関に おいて実施することはできない。
有効性 ・期待した効果が得られたか 又は計画した将来に効果が得られる見込か 【2】【7】から	高	日本サラマンカ大学友の会の連絡調整の下、サラマンカ大学との協定 更新を円滑に行うことができた。
公平性 ・受益者及び受益者負担は適正か 【2】【6】【7】から	高	規約等により定められた額である。
〔総合評価〕 ・拡充：目標を達成しており、良い状態が続いて いるため、より良くしていく ・現状維持： 様々な要因により、事業担当課の裁量で拡充 又は改善することが困難であり、現状のまま 事業を継続していく ・改善：目標を達成できておらず、事業の統合や 縮小、実施内容の変更など、見直しを図る ・廃止：実施予定期間満了などの理由により、 事業を取りやめる	現状 維持	日本サラマンカ大学友の会の連絡調整の下、サラマンカ大学と学术 交流を行っており、それにより学术交流の深化、薬学向上発展、日本ス 페인両国の友好親善の増進の成果が得られている。

事業評価シート(令和5年度事業評価用)

番号	2140025	001
----	---------	-----

【1.基本情報】

事業名	オープンキャンパス開催					
担当部名	薬科大学		担当課名	教務厚生課		
実施方法	直営	補助等の種類		実施主体	岐阜市	
開始・終了年度	平成	13	年度～	年度	根拠法令・関連計画	—

【2.事業概要】

目的 (何のためか)		本学への関心を深め、受験者数の増加、質の高い学生の確保を図る。
内容 (手段・手法など)		本学入学希望者に対して、施設内の公開、ミニ講義、研究体験等を、保護者に対して説明会等を実施する。
事業 の 対 象	何を	施設内の公開、ミニ講義、研究体験など
	誰に	本学入学希望者及びその保護者
	どのくらい	年1回開催、午前・午後の部×2日間
令和5年度からの変更点 (継続事業の場合)		入学希望者が本学在校生と勉強方法、学生生活等について相談できる個別相談会を行った

【3.支出(行政コスト)】

(1)人にかかるコスト

	令和3年度決算額		令和4年度決算額		令和5年度決算額	
	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)
正職員	937	29	5,311	167	5,377	167
パートタイム会計年度任用職員A	0	0	768	76	747	74
パートタイム会計年度任用職員B	0	0	0	0	0	0
計(A)	937	29	6,078	243	6,125	241

(2)物にかかるコスト

直接経費 【直接事業費】 (B)		令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)	令和5年度決算額(千円)
		0	361	484
直接事業費の 主な内訳		令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)	令和5年度決算額(千円)
項目	記念品・食糧費	0	343	484
	保険料	0	18	0
	映像作成業務委託費	0	0	0
減価償却費 【施設管理】 (C)		令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)	令和5年度決算額(千円)
		0	0	0
計(D)=B+C		0	361	484

(3)総コスト

総事業費(E)=A+D		令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)	令和5年度決算額(千円)
		937	6,439	6,609

【4.収入】

収入内訳		令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)	令和5年度決算額(千円)
国庫支出金		0	0	0
県支出金		0	0	0
市債		0	0	0
使用料・手数料		0	0	0
その他		0	0	0
計(F)		0	0	0

【5.収支】

市負担額一般 財源(E - F)		令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)	令和5年度決算額(千円)
		937	6,439	6,609

【6.コストバランス】

	令和3年度	令和4年度	令和5年度
事業受益者	申込者(200m)	参加者(保護者含む)	参加者(保護者含む)
受益者数	350	640	723
受益者負担額(千円)	0	0	0
受益者負担率(%)	0.0%	0.0%	0.0%
受益者1人当たりのコスト (円、一般財源ベース)	2,676	10,061	9,141

【7.指標】

アウトプット評価 (資源投入(インプット)により産出した活動(サービス))

活動指標名	参加者数(高校生等及び保護者)	単位	人
	令和3年度	令和4年度	令和5年度
目標値	350人	320(高校生等定員)	480(高校生等定員)
実績値	350人	高校生等286人、保護者203人	高校生等426人、保護者297人

アウトカム評価 (アウトプットによりもたらされた成果)

成果指標名	業学研究体験の参加者アンケートで よかったと回答する割合(5段階評価中の「5」)		単位	%
	令和3年度	令和4年度	令和5年度	
目標値	100	100	100	
実績値	98.2	99.3	88.8	
達成状況	×(未達成)	×(未達成)	×(未達成)	

【8.評価】

評価項目	評価	理由(可能な限り定量的又は定性的な指標を用いて説明)
必要性 目的が市民・社会のニーズに合っているか 事業を市が担う必要があるか(民間・国・県) 類似の事業はないか、あれば当該事業との 統廃合はできるか 【1】【2】から	高	国公立大学の9割以上の大学でオープンキャンパスを実施しており、少子化が進行する現在、オープンキャンパスの実施は学生募集の観点から不可欠。
		オープンキャンパスを行うには、本学が主催する必要がある。
		類似の事業なし。
効率性 費用対効果 他に効率的な方法はないか (広域・民間活用・市民協働など) 【1】【3】【4】【5】【6】から	中	人的コストなどで費用がかかっているが、アンケートでは参加者の98.4%が「とても良かった」「良かった」と回答しており、一定の効果がある。
		オープンキャンパスを行うには、本学が主体となって開催する必要がある。
有効性 ・期待した効果が得られたか 又は計画した将来に効果が得られる見込か 【2】【7】から	中	令和6年度新入生アンケートでは、31.5%が影響したと回答しており、学生募集に一定の効果がある。
公平性 ・受益者及び受益者負担は適正か 【2】【6】【7】から	中	他大学のオープンキャンパスで受益者負担額として参加料を徴収している例はなく、当イベントの性格上、参加無料が適当。
〔総合評価〕 ・拡充：目標を達成しており、良い状態が続いているため、より良くしていく ・現状維持：様々な要因により、事業担当課の裁量で拡充又は改善することが困難であり、現状のまま事業を継続していく ・改善：目標を達成できておらず、事業の統合や縮小、実施内容の変更など、見直しを図る ・廃止：実施予定期間満了などの理由により、事業を取りやめる	改善	目標値である参加者アンケートで5評価100%は達成できていないが、今後も、参加者のニーズをくみ取り、満足度を高めるようなプログラムを提供し、継続的に実施していく。

事業評価シート(令和5年度事業評価用)

番号	2140025	002
----	---------	-----

【1.基本情報】

事業名	市民公開講座					
担当部名	薬科大学			担当課名	教務厚生課	
実施方法	直営	補助等の種類			実施主体	岐阜市
開始・終了年度	昭和	59	年度～		年度	根拠法令・関連計画
						—

【2.事業概要】

目的 (何のためか)		薬学単科大学である本学の特性を生かした講義を行い、地域医療に貢献し、地域に開かれた大学を目指す。
内容 (手段・手法など)		本学教員を講師として、「健康」をテーマに、健康であるために日常の食生活の中で気を付けることや、生活習慣ではどんなことに気を付けるべきか、くすりについてなどの講義(年5回)を行う。
事業 の 対 象	何を	本学教員が講師の市民公開講座
	誰に	一般市民、定員60名
	どのくらい	年5回開催
令和5年度からの変更点 (継続事業の場合)		参加者を増やすため、本学オープンキャンパスにおいて、市民公開講座の広報を実施。

【3.支出(行政コスト)】

(1)人にかかるコスト

	令和3年度決算額		令和4年度決算額		令和5年度決算額	
	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)
正職員	0	0	636	20	644	20
パートタイム会計年度任用職員A	0	0	0	0	0	0
パートタイム会計年度任用職員B	0	0	0	0	0	0
計(A)	0	0	636	20	644	20

(2)物にかかるコスト

直接経費 【直接事業費】 (B)		令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)	令和5年度決算額(千円)
		0	128	76
直接事業費の 主な内訳		令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)	令和5年度決算額(千円)
項目	報償費	0	75	75
	消耗品	0	53	1
		0	0	0
減価償却費 【施設管理】 (C)		令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)	令和5年度決算額(千円)
		0	0	0
計(D)=B+C		0	128	76

(3)総コスト

総事業費(E)=A+D		令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)	令和5年度決算額(千円)
		0	764	720

【4.収入】

収入内訳		令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)	令和5年度決算額(千円)
国庫支出金		0	0	0
県支出金		0	0	0
市債		0	0	0
使用料・手数料		0	0	0
その他		0	110	102
計(F)		0	110	102

【5.収支】

市負担額一般 財源(E - F)		令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)	令和5年度決算額(千円)
		0	654	618

【6.コストバランス】

	令和3年度	令和4年度	令和5年度
事業受益者	—	公募した受講者	公募した受講者
受益者数	-	44	41
受益者負担額(千円)	0	110	102
受益者負担率(%)	0.0%	14.4%	14.2%
受益者1人当たりのコスト (円、一般財源ベース)	0	14,864	15,073

【7.指標】

アウトプット評価 (資源投入(インプット)により産出した活動(サービス))

活動指標名	開催回数	単位	回
	令和3年度	令和4年度	令和5年度
目標値	-	5	5
実績値	-	5	5

アウトカム評価 (アウトプットによりもたらされた成果)

成果指標名	受講者数	単位	人
	令和3年度	令和4年度	令和5年度
目標値	-	100	60
実績値	-	44.0	41
達成状況	—	× (未達成)	× (未達成)

【8.評価】

評価項目	評価	理由(可能な限り定量的又は定性的な指標を用いて説明)
必要性 目的が市民・社会のニーズに合っているか 事業を市が担う必要があるか(民間・国・県) 類似の事業はないか、あれば当該事業との 統廃合はできるか 【1】【2】から	中	地域医療に貢献し、地域に開かれた大学を目指すという目標の下、生涯学習の場を提供することは重要。 薬学単科大学である本学が主催して行う必要がある。 類似の事業として薬剤師生涯教育講座やリカレント講座などがあるが、いずれも対象者を薬剤師とし開催趣旨が異なることから統廃合はできない。
効率性 費用対効果 他に効率的な方法はないか (広域・民間活用・市民協働など) 【1】【3】【4】【5】【6】から	高	本学教員が講師として開催するため、外部講師を招くより、低廉な報償費で開催できている。 本学教員が講師として開催していることで、コストの大部分を占める報償費を抑えられているため、他の効率的な方法は見当たらない。
有効性 ・期待した効果が得られたか 又は計画した将来に効果が得られる見込か 【2】【7】から	高	令和5年度アンケートでは回答者の約7割が「参考になった」と回答しており、一定の効果がある。
公平性 ・受益者及び受益者負担は適正か 【2】【6】【7】から	高	受講料は1回あたり500円と、文部科学省が公表する公開講座受講料設定調査の約3割を占めた「1000円未満」に該当しており、適正である。
〔総合評価〕 ・拡充：目標を達成しており、良い状態が続いているため、より良くしていく ・現状維持： 様々な要因により、事業担当課の裁量で拡充又は改善することが困難であり、現状のまま事業を継続していく ・改善：目標を達成できておらず、事業の統合や縮小、実施内容の変更など、見直しを図る ・廃止：実施予定期間満了などの理由により、事業を取りやめる	改善	市民公開講座はこれまでも報償費を抑えて低いコストで開催している。令和2年度・3年度は新型コロナウイルス感染症拡大のため開催を見合わせたが、令和4度より再開した。目標の達成はできなかったが、より地域医療に貢献できるよう、講座の内容等を精査して引き続き実施していく。